

K-らいふ

Activity Report of 2024

令和6年度 活動報告

全学
一体

- 1 退任によせて
- 2 令和6年度 学位記・修了証書授与式 ほか
- 3 卒業生随想
- 4 令和6年度「伊勢志摩定住自立圏共生学教育プログラム」学修成果発表会 ほか
- 5 高等学校・中学校で卒業式 ほか
- 6 教学振興会寄付者芳名、クラブ応援メッセージ募金納入状況報告
- 7 研究開発推進センター トピックス
- 8 デキゴトロジー

退任によせて

令和6年度に退職された方々から寄せられた
メッセージをご紹介します。

悠久の日本の根幹を 固める大学として

学長 河野 訓



平成31年(令和元年)4月以来、学長職にあった6年間、学内外の皆様には一方ならぬご高配を賜り、誠にありがとうございました。

1年目は御代替りがあり、華々しく令和の御代が始まり、都鄙を問わず津々浦々で奉祝の諸行事が行われました。2年目から4年目は波状に襲いかかる新型コロナウイルス対策に追われながらも、嬉しいことに令和4年には皇學館大学創立百四十周年・再興六十周年の佳節を祝うことができました。令和5年以降は諸事が往時に復したとはいえ、国内外で地震や豪雨などの自然災害や森林火災が発生し、大学としてはコロナ禍中に加速度的に進展した高度情報化や想定外の人口減少などへの対応を迫られてきました。

この6年間に蓄積された私の文書ファイルで大きなパーセナージュを占めているのは挨拶・スピーチのメモと新型コロナウイルス対策関係のファイルです。個人的には挨拶やスピーチのメモは作成の負担が大きかったものの、今となってはある種の業務日誌ともいえます。また、コロナは実質3年間でしたが、その間の対策会議は百十回、学内の諸事万端に及び、教職員の方々の積極的な参画の下、学内外の衆知を集めて対応しました。皇學館はその創始からして教学面で神宮を支える務めがあり、多大なご支援を得て再興されたことを思えば、頂いた御恩を国家や地域社会に還元するのは当然のことです。今後も皇學館は悠久の日本の根幹を固める大学として、伊勢・志摩の知(地)の拠点であり続け、その薫化が日本を豊かにしてくれることを念願しています。

敬神・尊皇の心あるかぎり…

文学部教授 松浦 光修



私が故郷の熊本から、入学試験のため、はじめて伊勢の地を訪れたのは昭和53年のことで、翌年の4月、私は国史学科に入學しました。46年も昔の話です。学部、大学院と在学したあと、兵庫県の私立高校で勤務しましたが、平成4年、国史学科の助手として採用していただきました。その時からさえ、33年の

歳月が流れます。岸信介総長、佐藤通次学長などを、直接知っている教員も、木造の校舎群、六角講堂の廃墟などの風景を覚えていた教員も、いまはもう…ほとんどいないでしょう。そのように大学のすがたは、大きく変わりましたが、わが大学の敬神と尊皇の心は、いまでも変わっていません。そうであるかぎり、皇學館は皇學館でありつづけるでしょうし、逆からいえば、そうでなくなった時、たとえばがたは同じでも、皇學館は皇

人に恵まれた

現代日本社会学部教授 富永 健



私が本学に赴任したのが平成2年4月であつたので、満35年が経過したことになります。伊勢で春を迎えるのは36回目になり、そして今回が伊勢で迎える最後の春になるわけです。今の率直な感想は、よく35年間務めることができたということです。赴任して最初に所属したのは教養科でした。当時のカリキュラムは、教養科目と専門科目とからなっていて、その教養科目を担当する教員が所属していました。そこで最年少の教員とし

て(叶先生も同い年)、さまざまな大学行事に参加しました。研究室を整理していたら古い写真が出てきて懐かしかったこと(「1泊しての新入生の指導や「学生のつどい」等」。その後、教養科の改組に伴い、神道学科に移りましたが、神道学科では、ゼミを受け持ち、研究旅行と卒業論文指導に携わったのが印象に残っています。また、神社実習のご挨拶のため各地の神社に伺ったことも思い出深いものがあります。そして、平成22年から現代日本社会学部に移ることになるのですが、ここの思い出は、とてもここには書ききれないものです。ただ、学部長として、もっとやるべきこ

学館でなくなるのでしょうか。

私は幼いころから、心身ともに虚弱な者でした。また私は、学生のころから今日にいたるまで、大学に、いろいろと迷惑をおかけしてきました。そのような私が、ともあれ健康で、定年まで無事に勤務できたという

幸いなこと

教育学部教授 叶 俊文



この最後の1年間に思っていたことは、南海トラフ地震が起これなかったことが幸いであるということです。もしも地震が発生して甚大な被害が起きたとすると、先ず教職員は自身や自身の家族を支援することが最優

ことは、ひとえに神々のご加護と、関係各位の温かいお心の賜物にほかなりません。いまの私は皇學館大学に、ひたすら感謝の念をさげつつ、皇国の無窮の栄えのもと、皇學館大学の栄えも、また無窮でありますように…と、心より祈るばかりです。

先になります。しかし、私は伊勢に一人暮らしをしているので、いち早く皇學館大学に駆けつけることになると思います。皇學館大学は高台にあり、周辺住民が避難してくる場所になります。避難した方々や車での避難者を誘導する必要があります。総合体育館なのか、大教室なのか、記念講堂なのか、判断しないといけませんし、誘導も必要

とがあつたのでは、との想いは残ります。

振り返っていえることは、人に恵まれていたということにつきます。先生方や職員の方々に

今後も大和魂の復興に尽力

現代日本社会学部准教授 岩崎 正彌



15年間、たいへんお世話になりました。心より感謝を申し上げます。その2年前から、非常勤講師として京都より「日本の伝統建築」「日本の伝統工芸」を担当させていただきました。新学部の立ち上げに際して「伝統継承・文化創造コース」の常勤の教員と

は本当に良くしていただきました。これからも皇學館大学が永遠に続くことを信じて、そして皆様に心から感謝申し上げます。 攔筆いたします。

して、招いていただくことになりました。毎夏の教員免許状更新講習では、5日間のうちの1日を賜り「伝統と文化の理解」を小中高の先生方に伝授させていただきます(2会場×13年間)。授業では「伝統建築」「伝統工芸」「伝統芸能」「文化政策論」「日本礼法論」などを担当させていただきます。年に2回の日帰り見学授業「京都老舗探訪」を企画・引率させていただきました(8年間)。これは、後の「大學生テレビ局」の誕生にも一役

かったとのこと、光栄なり。

令和3年(2021)8月から1年間、派遣研究員制度(サバティカル)にて、ロンドン大学・東洋アフリカ学院(SOAS)・日本研究所(JRC)に客員研究員として英国に滞在させていただきました。併せてオックスフォード大学・継続教育学部・美術史コースの学生にも感謝なり。

近年では、裏千家茶道部と池坊華道部の部長を、消防団CLLも務めさせていただきました。理想を具現化させる建築家の職能と、伝統文化を教育化するプロデューサーの能力を、思う存分に奮わせていただいた15年間でありました。今後とも、東京より日本の伝統文化の精神たる大和魂の復興に尽力させていただきますたく存じます。皆様、本当にありがとうございました。

(2面に続く)

「元気にさよなら」

研究開発推進センター教授 荊木美行



右は藝能雑誌の『平凡』の最終号の表紙にあった言葉です。雑誌が売れずに廃刊するのですから、元気もなにもあったものではないのですが「最後まで元気です」という、所謂カラ元気ですね。私もいざ退職となるとどうしてもしんみりしてしまうので、ちょっと無理してこのタイトルを掲げてみました。

平成4年に伊勢に赴任し、はや33年。同期は外山秀一先生など私を含め4人でしたが、残っているのは齋藤平さんのみ。その齋藤さんは今年から学長です。昨今の大学を取り巻く状況には未曾有の厳しさがあります

皆さんこそが私の喜び

皇學館中学校教諭 岩崎真理



を経て浮かんだ幻に、まごうことなき歳月を感じ、胸がいっぱいになりました。

3月末日、定年退職の辞令を拝受し、大学図書館の咲き染めた桜の前で写真を撮影していただきました。無事にこの日を迎え、ホッとして嬉しいような、寂しくて切ないような、複雑な思いでカメラに向かうと、完成したばかりの記念講堂前階段、17期卒業生が全員集合の写真撮影中。卒業式後の高揚感に包まれて、4月から着任予定の高校に思いを馳せつつ、独り立ちする不安に、友の手をぎゅっと握りしめる私がそこに…。40数年

令和6年度学位記・修了証書授与式

687名が未来へ漕ぎ出す

3月18日、本学記念講堂において令和6年度学位記・修了証書授与式が挙行政され、学部生（文学部・教育学部・現代日本社会学科）659名、大学院生18名、神道学専攻科生10名の計687名が希望に胸を膨らませ、それぞれの未来へ一歩を踏み出した。

冷たい風と共に寒気が舞い戻った3月18日、令和6年度学位記・修了証書授与式が挙行政された。早朝、学生たちは本学の伝統である授与式前の神宮参拝を行い、無事に卒業できた喜びを奉告した。

では国歌斉唱、合旨奉読に続き、博士課程、修士課程、神道学専攻科の修了者及び学部卒業者の代表が登壇。それぞれの学位記・修了証書を授与された。

「日本を愛する心を大切に持ち続けて」



厳かに執り行われた学位記・修了証書授与式

式辞で河野訓学長は「4年間、多くの制約があったものの、今日、晴れの卒業式を迎える皆さんに心よりお祝いを申し上げます」と述べ、「日本を愛する心を大切に持ち続け、それぞれの進む分野の核的人材として、また周りに安心と希望、勇気を与える人間になって活躍してくれることを願っています」と期待を寄せた。そして「大学生活に大きな区切りをつけ、新しい自

分に生まれ変わって、前途洋々たる大海に漕ぎ出してください」と激励した。

夢を実現できた大学での学び

映像制作の道をめざし、「大学生テレビ局」のある本学に入学した現代日本社会学科総代の山下さんと二宮さんは「高等教育コン



山下さん 二宮さん

総代・各種表彰者

博士の学位授与	堀井純二	
	児島靖倫	
総代	文学研究科国文学専攻博士前期課程	海田喜一
	教育学研究科教育学専攻修士課程	二宮功至
	神道学専攻科	河崎由紀夫
	文学部神道学科	中川隼
	文学部国文学科	渡部倅世
	文学部国史学科	濱口恵美
	文学部コミュニケーション学科	岸田美桜
	教育学部教育学科	西場早利奈
	現代日本社会学部現代日本社会学科	山下真緒
恩賜奨学賞	現代日本社会学部現代日本社会学科	西胡桃
大宮司賞	文学部国文学科	西湊史有香
	教育学部教育学科	奥森晴香
	現代日本社会学部現代日本社会学科	中西美樹
理事長賞	文学部コミュニケーション学科	内田早衣子
学長賞	文学部神道学科	石原草太
統理賞	神道学専攻科	神部宏郁
	文学部神道学科	藤丸向日
三重県神社庁長賞	文学部神道学科	姉川優妃
長谷奨学賞	文学部神道学科	鈴木秋津
	文学部神道学科	中島愛
送辞	現代日本社会学部現代日本社会学科	甲田真吾
答辞	文学部国史学科	高殿紗綾
社会福祉士養成校の養成課程修了者に対する協会表彰		
	現代日本社会学部現代日本社会学科	鎌田真穂
精神保健福祉士養成校の養成課程修了者に対する協会表彰		
	現代日本社会学部現代日本社会学科	鈴木琴葉
保育士養成課程の卒業生に対する会長表彰		
	教育学部教育学科	神宮昌代

人事異動

令和7年3月31日付

大学退職

学長	河野訓
文学部神道学科特命教授	加茂正典
文学部国史学科教授	松浦光修
文学部国文学科助教授	吉井祥
教育学部教育学科教授	叶俊文
教育学部教育学科准教授	土谷長子
教育学部教育学科特命准教授	吉田京子
現代日本社会学科現代日本社会学科教授	富永健
現代日本社会学科現代日本社会学科准教授	岩崎真理
研究開発推進センター教授	正彌
研究開発推進センター教授	荊木美行
教育開発センター特命教授	中村哲夫
総務部研究開発推進センター事務室事務室長	浅井誠司

総務部研究開発推進センター事務室主事	梅川紗綾
学生支援部教職支援担当主査	東浦百合子
財務部管財担当事務員	濱村昌成
学生支援部教職支援担当事務員	教職アドバイザー
学生支援部学生担当事務員	米山公美
精華寮夜間管理員	山中幸浩
学生支援部学生担当事務員	手塚隆之介
精華寮夜間管理員	合宿所夜間管理員
学生支援部学生担当事務員	瀧川力
高等学校教諭	芳村祐帆
高等学校教諭	増田圭佑
高等学校教諭	岩崎真理
高等学校教諭	石田利恵
高等学校教諭	三好良夫

令和5年度優良教育実践

(令和6年6月19日受賞)

国史学科	服部直美 特命教授	教育現場とのつながりを生かした教職科目にかかわる授業の実践—教科教育法を中心に—
コミュニケーション学科	芳賀康朗 教授	1年次学科必修科目「初年次ゼミ」及び2年次学科必修科目「基礎演習」のテキスト作成
教育学部	野々垣明子 准教授	教育学部専門科目「教育学概論【a】」におけるLMSを活用した授業改善

令和6年度奨学金受賞者

学内奨学金授与	
皇學館大学給付奨学金 (10万円)	
国文3年	山中永羽
国文3年	南出基希
教育3年	澤村佳純
教育3年	生田愛奈
岡田奨学金 (10万円)	
現日4年	中西美樹
国史3年	間柄詩織
教育2年	東海里奈
教育学専攻修士課程2年	清水健太
長谷奨学金 (10万円)	
神道3年	釜本奏太郎
国文3年	西村朋恵
慶光院俊奨学金 (10万円)	
神道4年	姉川優妃
神道3年	松下恵吾
神道3年	松田恵
安部奨学金 (10万円)	
神道4年	藤丸向日
神道3年	浅岡愛
神道2年	内藤明日香
神道1年	神部宏郁
専の会教育奨励賞 (図書カード3万円分)	
国文4年	中川隼
国文4年	西湊史有香
国史4年	濱口恵美
教育4年	安藤みち子
教育4年	米津朋香
教育4年	板崎未歩
神道3年	布藤綾乃
国文3年	倉野瑠七
学外奨学金授与	
神社本庁育英奨学金 (30万円)	
神道4年	鈴木秋津
伏見稲荷大社奨学金 (24万円)	
神道4年	久米橋幹太
神道3年	赤堀寛弥
神道2年	相山もも香
神宮特別奨学金 (20万円)	
神道学専攻修士前期課程2年	鈴木翔大
神道3年	島田丞
全国敬神婦人連合会奨学金 (15万円)	
神道3年	山田ひかり
八坂神社奨学金 (10万円)	
神道学専攻修士前期課程2年	植松純希



卒業生随想

春からそれぞれの志す道を歩き始める卒業生たち。学生生活を振り返り、彼らの胸中に去来するさまざまな思いを語ってもらった。

成長を後押ししてくれた学生生活

現代日本社会学科
松野 笙子

就職先 明和町役場



学生生活は大変充実していたと共に、自身の成長ができた期間でもありました。友人と教室や食堂で学修に取り組んだり、他愛のない話をした時間はかけがえのないものとなりました。3年次より参加したCLL活動では、実践的な商品開発やイベント企画・運営に携わったことで、視野を広げ柔軟に考える力や主体性を身につけることができました。さらに、活動紹介を複数回経験したことで、弱みだった「分かりやすく伝えること」を強みに変えることができました。このように成長ができたのは決して自分だけの力だけでなく、日頃からの教職員、家族、友人の支えがあったからです。この場をお借りして感謝の気持ちを申し上げます。本当に有難うございました。

友人がいたことで乗り越えられた

コミュニケーション学科
岸田 美桜

就職先 三重県中学校(英語)



大学生活を振り返ると、本当にあっという間だったと感じます。授業やゼミで新しいことを学ぶのはもちろん、サークルやアルバイトを通じてたくさんの人と出会い、楽しい思い出がたくさんできました。大変だったのは、教員採用試験に向けての勉強でした。しかし、教員という同じ目標を持つ友人がいたことで乗り越えられたと思います。4年間いろいろなことがありましたが、自分なりに成長できたと思います。大学で得た学びや人とのつながりを大切にしながら、これからは教員として頑張っていきたいと思います。

大学で得た縁を大切に

神道学科
網岡 茉弥

就職先 速谷神社



皇學館大学での4年間は、多くの人に支えられたものであったと感じます。両親をはじめ、お世話になった先生方や先輩方、友人たちには感謝の念が尽きません。神職課程や学芸員課程での勉強や実習、雅楽部での稽古や奉仕、学生寮での生活など本当に多くのことを学び、経験させていただきました。苦しかったことや辛かったこともありましたが、同じ志を持つ友人たちと切磋琢磨し、共に過ごした日々はとても楽しく、かけがえのないものとなりました。卒業後はそれぞれの道に進みますが、大学生活で得た縁を大切に、今後の奉職生活を送りたいと思います。

協力一致の精神で

神道学専攻科
前崎 顕太郎

就職先 二見興玉神社



皇學館大学で神道について学び直した1年間の学生生活は、懐かしくも新鮮な時間でした。年代を超えた友人たちと出会い、助け合っている毎日は協力一致の精神を改めて思い起こすきっかけとなりました。また、しっかりと埋まった時間割と課題に頭を悩ませ、共通の話題でストレスを解消するなどまさに「学生」であったように感じます。卒業の後は、それぞれの土地でそれぞれの道を模索しつつ進むこととなります。年に一度会えるかどうか、ということになるかは存じますが共に苦労した記憶は消えず各々の心に留まることなのでしょう。再会を心待ちにしております。



青春

教育学科
竹原 柊馬

就職先 奈良県広域消防組合



私の大学生活は、柔道なしには語れません。部長である佐藤武尊先生の指導のもと、厳しい練習を毎日欠かさず行ったことは、今では良い思い出です。何より、苦楽を共にする多くの仲間ができたことが、私にとって一番の宝物になりました。時には稽古で上手くいかず、辛いこともありましたが、同じ目標を持つ仲間がいたおかげで、乗り越えることができました。また、自分自身が目標にしていた「全国大会」に出場することもできました。私は、皇學館大学柔道部で柔道家としても人としても大きく成長させていただきました。これからは、柔道を通して培ってきたことを人助けのために生かしていきたいと思っています。

最後になりましたが、4年間ご指導いただいた先生方やコーチの皆様、そしてこれまで支えてくれた両親に心から感謝を申し上げます。

大学生活で心に残っていること

国文学科
前川 貴哉

就職先 三十三銀行



大学生活では、部活動と勉強、その他資格の取得に取り組んだ。部活動は小学1年生から続けていた野球を大学でもすることができた。Aチームで活躍することはできなかったが、自分の役割を理解し、務めることができた。また、勉強面では教員免許を取ることができた。教育実習で実際に教育現場に触れ、様々な体験をすることができた。大学の講義以外にも、四日市や玉城で開催された実習に参加し、よりよいまちづくりを行った。これらの経験をこれからの社会人生活に生かしていきたい。

切磋琢磨しながら成長

国史学科
高殿 紗綾

就職先 株式会社メガネトップ



大学4年間で振り返ると3人の友人たちがいつも隣にいました。同じ趣味とところから入学式で意気投合し、同じ学科、学芸員課程だったこともあり、本当にずっと一緒に頑張ってきました。特に学芸員課程のつながりで榎原神宮の展示の手伝いや神道博物館でのアルバイトを4人で参加していたため、切磋琢磨しながら成長できたと思います。休日に遊ぶこともありましたが、大学で顔を合わせて話すだけで楽しかったです。友人たちとの思い出は書ききれないぐらいあり、こんなに大好きな人たちができて私は幸せ者です。出会ってくれてありがとう。これからもよろしくお願いします。

価値観が変わった野外調査

神道学専攻 博士前期課程
鈴木 翔大

就職先 春日大社



大学生活を思い返しますといろいろな経験をさせていただきました。その中でも一番印象に残っているのは、三重県周辺をフィールドにした野外調査です。先輩が調査に誘ってくださったことをきっかけに、野外調査の楽しさを知りました。見るもの全てが新鮮で、自分の価値観も大きく変わる経験でした。また、先生に「神宮をはじめとする調査対象に近いのが皇學館の良いところ」だと聞いてからは、土日は必ずどこかへ出歩きました。

お世話になった土地のお祭りに御神酒をお供えに行った際、同行した学友といきなり精進潔斎の禊に参加することになったのは忘れられない思い出です。これからはこの経験を生かし神職として、社会に貢献できるよう頑張っていきたいと思っています。



地域活性化に向け可能性探る

令和6年度「伊勢志摩定住自立圏共生学教育プログラム」学修成果発表会

令和6年度「伊勢志摩定住自立圏共生学教育プログラム」学修成果発表会が3月4日に対面・オンライン併用方式で開催された。第1部「CLL活動報告会」では「ばりっ子会議から市政への提言プロジェクト」がオーディエンス賞を受賞。第2部「地域志向研究発表会」では4名が卒業論文を基に地域活性化に向けた提案を行った。

3月4日、令和6年度「伊勢志摩定住自立圏共生学教育プログラム」学修成果発表会が行われ、学生と出席者が活発に意見を交わした。



地域課題について活発な意見が交わされ、有意義な時間となった

第1部「CLL活動報告会」ではゲスト参加の鳥羽商船高等専門学校ジャンボタニシプロジェクトを含む8団体(表①参照)が取り組みの成果や活動で得られた気づき、感想を発表。質疑応答では学生たちが出席者からの質問に丁寧に答え、相互に理解を深め、より充実した活動にすべく浮かび上がった課題を共有する場面が見られた。

オンライン視聴者も含めた投票では「ばりっ子会議から市政への提言プロジェクト」がオーディエンス賞に選ばれた。同プロジェクトは学生が子どもたちの話し合いに加わり、彼らの考えを引き出して名張市長への提言につなげるサポートを担う。教育学科2年の大垣内友菜さん、田中深月さんは意見を出す



オーディエンス賞に輝いた「ばりっ子会議から市政への提言プロジェクト」。メンバーの大垣内さん(左)と田中さんは「何とかする」気持ちで大事と語る



活動報告ポスター賞は「リニアインパクト最大化プロジェクト」が受賞

②参照)。地域資源を活用した観光振興策など、いずれも地域貢献につながるアイデアが熱心に語られた。

総評において筒井琢磨教育開発センター長は学生の熱意を労う一方、今後の活動の質的向上を図るには成果を客観的に測定できる指標の開発が重要と指摘し、プロジェクト活動の一層の充実を促した。



CLL活動報告書



CLL活動ポスター

活躍WATCH!

「小さな一歩で世界は広がる」 西川輝さん(現日1)がインドで新たな挑戦

「Tongali」主催の「インド仮説検証研修」に西川さんが所属するチームが選出され、2月23日から3月4日にかけてインド研修に参加した。研修費用は全額主催者支援という厚いサポート体制は、参加者への期待の大きさを物語る。選出メンバーの中でただ一人大学1年生である西川さんが、現地でどのような経験をし、何を学んだのか、詳細を伺った。

●「インド仮説検証研修」に応募した理由は何ですか？

6月に愛知県で開催された「Tongali」主催のビジネスプランコンテストを聴講した際、同じ学生とは思えないほど優秀な学生を目の当たりにして、圧倒されると同時に憧れを抱きました。以来、1年間で14のプログラムやプロジェクトに参加し、自己成長にフォーカスを当ててきました。その中で今回のインド研修を知り、「あの時の学生と肩を並べ

●現地で印象に残った学びは何ですか？

共に挑戦したい」と強く思いました。研修には数々の審査がありますが、これまで培った経験と人脈を総動員すれば戦えるという強い覚悟が道を切り拓く原動力となりました。

●研修での経験を今後の学生生活にどう生かしますか？

聞きました。そのため多くの人が学業や仕事に真摯に取り組む、自らの実績を積み上げることに全力を注いでいる。様子が非常に印象的でした。

●将来の夢を教えてください。



インドの方の情熱、努力する姿勢に学びが多かったと語る西川さん

IT技術の高度化とカースト制度によるインドにおける「実績」の重要性です。私たちは、IT産業で急速な発展をするハイデラバードとバンガロールに行きました。現地の方々と交流する中で、インドでは過去の成果や実績が強く評価され、それが仕事やキャリアにおいて大きな影響を与えることを実感しました。背景には、都市化の進展とICT産業の発展により、伝統的な職業や社会的な枠組みの影響が、都市部を中心に薄れつつあることが関係していると

きな影響を与えてくれました。その経験から、人と社会とその未来を変えるのは教育だと感じています。その教育の持つ力を生かし、人々が自らの可能性を広げ、自信を持って挑戦できる社会づくりに貢献していきたいです。

●読者の学生にメッセージをお願いします。

卒業する時に「皇學館大学に入學して正解だった!」と胸を張り合いませんか?僕は大学受験で失敗を経験しました。今でも悔しさを感じています。しかし、その気持ちをばねに、この1年間過ごしてきました。もしあの時成功を経験していたら、今の活動を一つもしていなかったと思います。僕を含め学生の皆さんも、これからの人生で「選択すること」が無限にあります。その時に大切なのは正解を選ぶことではなく、選んだ選択肢を正解にするために全力を尽くした行動をすることだと思っています。何が正解かはわかりません。全ての出来事に意味を見出し、一緒に成功をつかみ取りましょう!

*Tongali(トંગ어リ): 学部生・大学院生を中心に次世代の起業家を育成・支援しようとする多面的なプログラムを提供する団体。名古屋大学をはじめ東海地区の大学により協働で運営されている。

表① 令和6年度 CLL活動

	活動名	発表した団体
1	だれもが働きやすい企業を表彰! ~男女共同参画キラリ☆プロジェクト~	
2	TMKミライデザインプロジェクト (玉城町明るい未来推進プロジェクト)	○
3	「Gift of Ise」プロデュースプロジェクト	
4	~伊勢ぶちたび~ EVモビリティを活用 市内周遊促進事業	
5	リニアインパクト最大化プロジェクト ~2037年に三重県が変わります!~	○
6	大学生による「大学生向けごみ分別啓発活動!!」	
7	フードロスなくせ!いちごスイーツプロジェクト ~規格外いちご「かおり野」を使用したお菓子のプロデュース~	
8	皇學館オリジナルグッズ制作プロジェクト	
9	度会カフェリョクプロジェクト	○
10	鳥羽なかまち(仲間)で地域活性化に取り組もう!	○
11	宇治山田駅前活性化事業	
12	若者の投票率UP! プロジェクト	
13	ばりっ子会議から市政への提言プロジェクト	◎オーディエンス賞
14	ウツボで地産地消プロジェクト	
15	インクルーシブスポーツ推進プロジェクト ~共生社会の実現を目指して~	
16	「広報いせ」特集記事制作プロジェクト	○
17	三重の魅力を発信! スイーツプロジェクト	
18	廃業する農家と廃棄するいちごをすくえ! いちごのみかたプロジェクト	
19	皇學館大学学生広報隊	
20	消防団の新たな役割発見プロジェクト	○
21	いせ移住PR支援プロジェクト	
22	産学官連携日本酒プロジェクト	
23	地域活性化サポーターズFIT	
24	CLL活動運営学生スタッフ	
25	地域に貢献する食農教育のイベントプランナー	
26	若者の声プロジェクト	
27	ほめちぎる教習所伊勢×皇學館 セーフティドライブプロジェクト	

表② 第2部 地域志向研究発表会

発表者	演題
稲垣 朱根(現日4)	地域資源の魅力発信について
加藤 誠希(現日4)	外宮参道における ナイトタイムエコノミーの有用性
中川 隼(神道4)	地域資料の観光活用について ~三重県度会郡南伊勢町宿田曾地域・『宿田曾村誌』~
三好ともる(現日4)	地域コミュニティと防災・減災 三重県度会郡南伊勢町を事例として



会場には明治時代のラッパ型の蓄音機や昭和期のポータブル型、手のひらサイズの珍品まで5台の蓄音機が置かれ、90年以上の歴史があるレトロな駅舎によく馴染んでいた

宇治山田駅で蓄音機コンサートを開催

3月8日に伊勢市の近鉄・宇治山田駅で、近畿日本鉄道と皇學館大学が協力して蓄音機コンサートを開催。30分間の演奏が3回にわたり行われ、ジャズやクラシック、伊勢音頭など蓄音機から流れる音色に約140名の来場者が耳を傾けた。

奥野侑里、間柄詩織、松方優花(国史3)、釜本奏太郎(神道3)が企画と選曲、蓄音機の操作、解説まで全てを担当し、国史学科の長谷川怜准教授が監修した。奥野さんは「蓄音機はゼンマイを回したり、1曲ごとに針を交換したりと手間が掛かるが、その手間こそが愛おしく魅力。歴史に思いを馳せながら楽しんでいただけたら嬉しい」と語った。

べた。来場者の中には蓄音機に興味深く観察し、熱心に質問する人もいた。これらの蓄音機は長谷川准教授のコレクションで、普段の授業でも活用している。長谷川准教授は「歴史ある伊勢の地で学ぶ学生が歴史や文化に関わるイベントを主催したことがとても嬉しい。場所の提供など便宜をいただいた近鉄にも感謝したい」と語った。

高等学校・中学校

高等学校333名、中学校17名が巣立つ

令和6年度卒業証書授与式

令和6年度卒業証書授与式が皇學館高等学校で3月1日、皇學館中学校で同日19日に厳かに執り行われた。

式辞で芝崎俊也校長は皇學館高等学校が文部科学省よりDXハイスクールに指定されたこと



厳かに執り行われた高等学校卒業式

に触れ、デジタル変革に対応した先進的な教育環境のもとで次世代を担う人材育成に注力していると言及した。その上で、変化の激しい現代社会においては、果敢に挑戦する意欲と自らの未来を切り拓く強い向上心が不可欠と説いた。さらに、社会は常に人と人とのつながりによって成り立っているとし、清明正直の精神を胸に、新たな舞台で力強く歩んでいくよう激励した。

高等学校卒業生代表の山中美璃依さんは充実した学校生活を振り返り、修学旅行での経験が自身の将来の夢を見つけるきっかけになったと話した。続いて、それぞれ道は分かれるが、どんな困難があっても諦めずに進んでいこうと仲間呼びかけた。



セミナーホールで執り行われた中学校卒業式

中高合同

中高生徒14名が台湾で友好の輪広げる

皇學館中学校・高等学校台湾研修

皇學館中学校・高等学校は3月9日から12日まで、3泊4日の日程で合同による初めての台湾研修旅行を実施した。参加したのは生徒14名。

研修のハイライトは高雄市立



台湾の生徒たちと文化交流

楠梓高級中学(高校)との学校交流だ。生徒たちは最初こそ緊張気味だったものの、同年代の台湾の中高生たちとすぐに打ち解け、言葉や文化の壁を越え友情を育む様子が見られた。

座学だけでは得られない、直接体験・直接交流という貴重な経験が生徒たちにもたらされた今回の研修。異文化に触れる中で視野を広げ、相互理解の大切さを学んだようだ。生徒たちの今後の活躍に期待が高まる。

生徒感想

●現地校交流が最も楽しく印象深いものであり、言語の壁を



学校交流のほか、高雄市内観光も行い、台湾の歴史風土に触れる機会となった

越えて相手と理解し合うことの大切さを実感した。互いに好きな音楽や趣味の話をしたときは言葉が完璧でなくても通じ合えることを強く感じ

日頃の取り組みや実績が評価された



3年10組 伊藤 晃二

私は名古屋大学理学部の数学科に総合型選抜で合格しました。

一次選考では志願理由書および任意提出書類、数学・理科・外国語の共通テストの得点により評価されました。特に準備はしていませんでしたが、数学に関する取り組みを日常的に行っていたことや数学オリンピックなどで実績を残したこと、共通テストの配点が高く設定されていた数学で満点を取ったことなどが幸いし、無事に一次選考を通過することができました。

二次選考では面接により評価されました。質問のほとんどが数学の知識を問うものであったことから、極度に緊張しつつも的確に答えることができ、晴れて合格することができました。

一般選抜の準備も進める中、思いがけず合格をもらう結果となりましたが、一足先に進路が決まったことを利用し、英語や数学の予習などに時間を注ぎたいと思います。

名古屋大学合格体験記

た。すべてが自分にとって貴重な学びとなった。

(高校1年7組 岡本成矢)

●言語の違う人とのコミュニケーションの楽しさを知ることができた。九份や芸術特区などの観光も楽しめ、軍隊の交代式を見るなど貴重な体験もでき、とても興味深かった。

(高校1年8組 中山湧士)

●台湾研修ではいろいろな所に観光に出かけ、食事を楽しんだ。エビチリのような料理やチャーハンがみんなに好評で、おいしい台湾料理を堪能した。夕食では待ちに待った小籠包を食べた。とても充実した4日間で、いい経験になった。(中学校1年A組 竹谷真歩)

高等学校

古都で日本の伝統を体験

1年生・京都フィールドワーク

2月13日・14日の両日、1年生が京都フィールドワークを実施した。初日に平安神宮を正式参拝後、座禅や清水焼絵付、友禅染、扇子作り、菓子作りと各自が選択した体験活動を楽しんだ。



時折り雪が舞う中、厳肅な気持ちで平安神宮を正式参拝

楽しかった清水焼の絵付体験

1年7組 松岡良波

当日は天気あまり優れなかったけど、おかげで雪が降り、北へ向かっている雰囲気を感じられ非常にワクワクしました。平安神宮を正式参拝後、バスで向かった清水坂では清水焼の絵付体験を行いました。色合いの調整が難しかったけど、珍しい体験ができて楽しかったです。その後の自由時間では清水寺周辺を散策しました。清水寺で引



クイズなども交え盛り上がった舞妓さんとの交流

中学校

クイーンズイングリッシュに浸った3日間

3年生・修学旅行

旅行だったと思います。

(黒田若奈)

あるイギリスの街並みを再現した語学研修施設「ブリティッシュヒルズ」に滞在。3日間、クイーンズイングリッシュで日頃の語学学習の成果を発揮した。その後東京へ移動し、東京ディズニーランドや靖国神社、国会議事堂、皇居外苑、東京大学を巡った。

以下に生徒の感想を紹介する。

(迫本菜那)

●修学旅行が始まるまではクイーンズイングリッシュで過ごせるかどうか不安でしたが、どのレッスンも非常に楽しいものでした。クラスメイトとの仲もいっそう良くなった感じがして、全体を通してよい修学

旅行だったと思います。

(小林拓叶)

●今回の修学旅行を通して、英語力や生活力を飛躍的に高めることができました。これからも今回の経験を生かして、スピーキングやリスニングスキルを磨いていきたいと思っています。(上村乙華)



東京ディズニーランドにて

研究開発推進センタートピックス

平成25年に発足して以来、研究の成果を発信し、地域の知の拠点としての役割に期待がかかる「研究開発推進センター」。

令和6年度の活動を報告します。

神道研究所

「祖への祭祀と古墳」

公開学術講演会

公開学術講演会「祖への祭祀と古墳」(笹生衛國學院大學教授)が令和6(2024)年7月11日、本学4号館431教室で開催され、55人が参加した。なお、オンラインによる講演を聴講する形式で開催された。



笹生衛氏と挨拶をする松本研究開発推進センター長(左)

笹生氏は、人間の遺体への認知機能から考える古墳の意味を中心に、国家体制の変化に伴う古墳の形式の変化、宮都の固定化と古墳の終焉、皇室の祖先へ

の祭祀も新嘗・大嘗祭として制度化したことで、各民族でも『古事記』『日本書紀』『風土記』などに見られる「祖」祖先への信仰・祭祀として受け継がれたと講じた。

この講演の内容は、『皇學館大学研究開発推進センター紀要』第12号に収録予定である。

「近世神道家の学問と儀礼」

公開学術シンポジウム

公開学術シンポジウム「近世神道家の学問と儀礼」が令和6(2024)年12月21日、本学神道博物館講義室で開催され、30人が参加した。

橋家神道の地域的展開や国学との関わり、さらには近代における橋家神道のあり方など、従来の研究をさらに進める新しい見方を提供することを目的に、橋家神道の形成と展開についての基調演題、垂加神道・橋家神道に基いた学問が地域的展開を見せた伊予国(現愛媛県)に注目した3報告を行った。

登壇者／【基調講演】松本丘(本学研究開発推進センター長・文学部教授)「橋家神道の形成と展開」【発題】森正康氏(愛媛県神社庁副庁長)「伊予国の垂加神道と橋家神道」福井敦彦氏(熱田神宮学院講師)「矢野玄道とそ



シンポジウムの登壇者

の周辺の学問、新田恵三(本学文学部助手)「三輪田家の人々と垂加神道・橋家神道」【コメント】大貫大樹氏(金沢工業大学基礎教育部助教)、「司会」松下道信(本学文学部教授)

このシンポジウムの内容は、『皇學館大学研究開発推進センター紀要』第12号に収録予定である。

史料編纂所

古文書講座、公開講座が盛況
創立百五十周年に向け『日本後紀史料』編纂事業を推進

史料編纂所では、例年、一般市民の方々に編纂所の事業内容を知っていただくために、古文書講座と公開講座を実施している。

今年度は、6月に研究開発推進センターの荊木美行教授が、7月には同センター京泉勇平助手が、それぞれ正倉院文書の『伊賀国正税帳』と、伊勢神宮の規定を記した『延喜式(伊勢大神宮式)』を取り上げた。10月と11月には同センター小林郁助教(学芸員を講師に迎え、中近世の伊勢御師関係の文書についてお話しいただいた。

聴講生の方々は、初心者から慣れ親しんだ人までおり、古文書の一字一字の解説に熱心に取り組み、三重の歴史を深く学ばれていた。

9月の公開講座では、元福井県教育庁埋蔵文化財センターの中司照世所長をお招きした。「武内宿禰関連伝承を検証する―神功皇后と武内宿禰後裔諸氏族の考古学的検証―」と題して、武内宿禰後裔氏族の居住地や古墳が神功皇后伝承と関係性が深いことについてご講演いただいた。

また、史料編纂所では、編年史料集や古文書の翻刻に取り組みしており、令和6年度は、第一部門の成果として、『日本後紀史料(稿)―延暦十五・十六年―』をセンター紀要11号に掲載し、『日



7月の古文書講座の様子

佐川記念神道博物館

令和6年度企画展に関連したテーマで 教養講座を開催

神道博物館教養講座は、一般の方を対象とした生涯学習のための講座である。令和6年度は「読み継がれる日本書紀」と「澤瀉久孝文庫の名品展―写本と版本の万葉学―」の企画展テーマにおいて、4名の講師により以下のとおり開催した。

第1回 9月21日

「日本書紀の読み方」

―三輪山の神婚伝承を中心に―

講師 京 泉 勇 平
皇學館大学研究開発推進センター助手

第2回 10月19日

「日本書紀を伝えた人々」

―千三百年の読書史―

講師 荊 木 美 行
皇學館大学研究開発推進センター教授

第3回 10月26日

「澤瀉久孝の万葉集研究」

講師 大 島 信 生
皇學館大学文学部教授

第4回 12月14日

「澤瀉久孝文庫の古典籍」

―近代写本にみる澤瀉久孝の国文学研究―

講師 橋 本 雅 之
皇學館大学文学部教授

企画展「読み継がれる日本書紀」―澤瀉久孝文庫の名品展―写本と版本の万葉学―」ほか

令和6年度は企画展を2回開催した。「読み継がれる日本書紀」(9月23日～11月3日)では、書物としての『日本書紀』に焦

点をあて、先人たちが日本最古の歴史書をどのように研究・注釈し、いかにして受け継いできたのかを紹介した。澤瀉久孝文



先人の『日本書紀』研究に着目した企画展



澤瀉久孝文庫の貴重資料を「挙公開

夏休み親子教室

夏休み親子教室は、日本の伝統・郷土の文化に関する体験を通して、子どもたちに日本人の感性や心を学んでもらうことを目的としている。令和4年度より佐川記念神道博物館学芸員監修のもと、本学の学芸員課程履修生が企画・運営をしている。



ミニ掛軸づくりを楽しむ子供達と、作り方をレクチャーする学生

令和6年度は「提灯をつくる」(7月21日)、「ミニ掛軸を作ろう」(7月27日)の2企画を1日ずつ開催。伊勢市内の小学生とその保護者、53組139名にご参加いただいた。(詳細は学園報第102号)

神社検定特別講座 「伊勢・皇學館大学で学ぶ神道いろは」を開講



全国から多くの受講者が集った

3月8日、9日の2日間にわたり、神社検定(公財日本文化興隆財団主催)の合格者を対象とする特別講座が本学で開催された。全国の20代から70代の幅広い世代、総勢約90名が本学の学びを体験した。

講座では、神道博物館や祭祀教室などを見学した後、昼食時には神道の食事作法のレクチャーを受けた。2日間連続で受講した熱心な参加者もあり、「本や資料では知れない話がたくさん聴けて良かった」「普段入れない大学で貴重な体験ができた」と喜びの声が多く上がった。



祭祀教室を松本丘教授が案内した

[illegible]